聖霊降臨節第 14 主日／聖餐式　　No. 36

主日礼拝

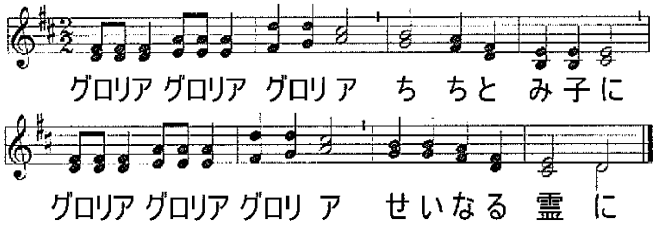
2025 年 09 月 07 日
午前 10 時 30 分

前奏　「聖餐」　（T. デュボア）

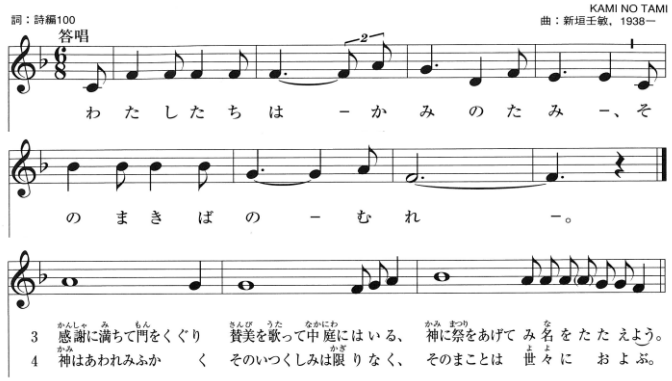
参集　（報告 ・ 紹介 ・ 予定）

招詞

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」
(ローマの信徒への手紙 8:28)

頌栄　26「グロリア」

信仰告白　使徒信条

我は天地の造り主(ぬし)、全能の父なる神を信ず。我はその独(ひと)り子、我らの主(しゅ)、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬(ほうむ)られ、陰府(よみ)にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへ(え)り、天に昇り、全能の父なる神の右に坐(ざ)したまへ(え)り、かしこより来(きた)りて、生ける者と死ねる者とを審(さば)きたまはん(わ)。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交(まじわ)はり、罪の赦(ゆる)し、身体のよみがへ(え)り、永遠(とこしえ)の生命を信ず。アーメン。

賛美　5-3,4「わたしたちは神の民」

3 わたしたちは神の民
その牧場の群れ
感謝に満ちて門をくぐり
賛美を歌って中庭にはいる
神に祭をあげて み名をたたえよう。

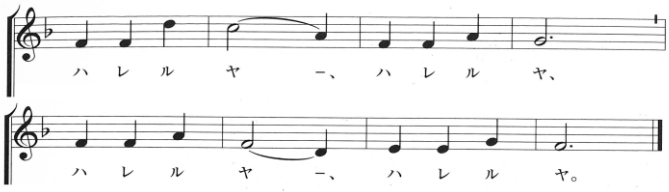
4 わたしたちは神の民
その牧場の群れ
神は憐れみ深く
そのいつくしみは限りなく、
そのまことは世々におよぶ。

祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。
アーメン。

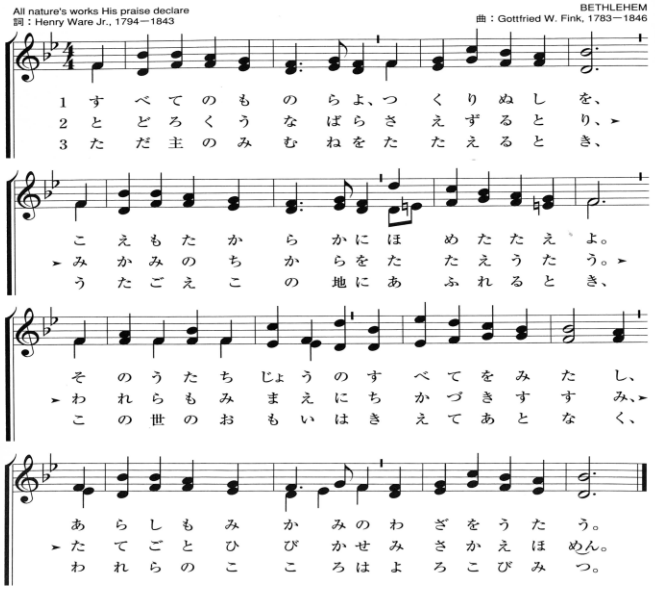
賛美　39-5（2 回）「ハレルヤ」

聖書　マタイによる福音書 13:24～43

新約(新共同訳)P25～P26

24 イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。25 人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。26 芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。27 僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょう。』28 主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、29 主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。30 刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』」
31 イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、32 どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」

33 また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」
34 イエスはこれらのことをみな、たとえを用いて群衆に語られ、たとえを用いないでは何も語られなかった。35 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。
「わたしは口を開いてたとえを用い、
天地創造の時から隠されていたことを告げる。」
36 それから、イエスは群衆を後に残して家にお入りになった。すると、弟子たちがそばに寄って来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。37 イエスはお答えになった。「良い種を蒔く者は人の子、38 畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。39 毒麦を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り入れる者は天使たちである。40 だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなるのだ。41 人の子は天使たちを遣わし、つまずきとなるものすべてと不法を行う者どもを自分の国から集めさせ、42 燃え盛る炉の中に投げ込ませるのである。彼らは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。43 そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。耳のある者は聞きなさい。」

賛美　225「すべてのものらよ」



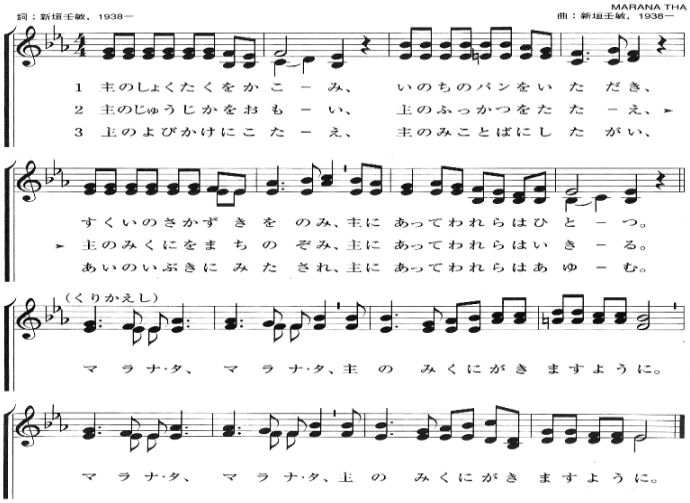
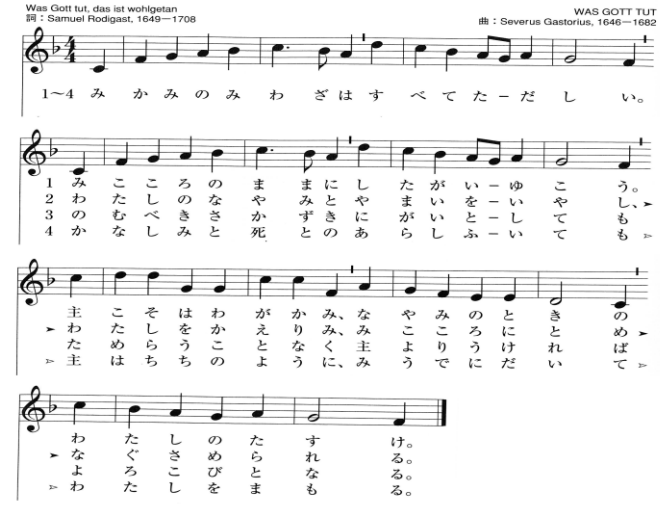
1 すべてのものらよ、つくりぬしを、
声も高らかに　ほめたたえよ。
そのうた地上の　すべてを満たし、
嵐もみ神の　わざを歌う。

2 とどろくうなばら　さえずる鳥、
み神の力を　たたえ歌う。
われらもみ前に　近づき進み、
たて琴ひびかせ　みさかえほめん。

3 ただ主のみむねを　たたえる時、
歌声この地に　あふれる時、
この世の思いは　消えてあとなく、
われらの心は　喜び満つ。

説教「忍耐の先にあるもの」

聖餐式　81「主の食卓を囲み」

（配餐前 1,2 節、後 3 節）

賛美　527「み神のみわざは」

1 み神のみわざは　すべて正しい。
み心のままに　従いゆこう。
主こそはわが神、悩みのときの
私の助け。

2 み神のみわざは　すべて正しい。
私の悩みと　病をいやし、
私をかえりみ、み心にとめ
なぐさめられる。

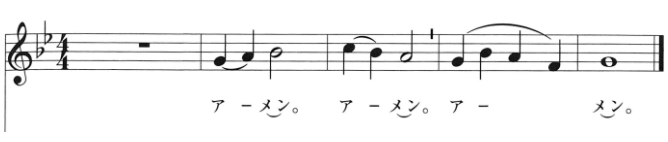
3 み神のみわざは　すべて正しい。
飲むべき杯　苦いとしても
ためらうことなく　主より受ければ
よろこびとなる。

4 み神のみわざは　すべて正しい。
悲しみと死との　あらし吹いても
主は父のように、み腕に抱いて
私を守る。

派遣

司式者　主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会 衆　**わたしがここにおります。**
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

後奏　「み神のみわざは（527）」
（J．パッヒェルベル）

司 式：山野上　純子
説 教：向井　希夫牧師
奏 楽：大代　惠
助 餐：塩冶　みはる
喜多村　文子

※お立ちになるのが困難な方は、座ったままで礼拝をお守り下さい。